

1. 構想の概要

【構想の名称】

東北大学グローバルイニシアティブ構想

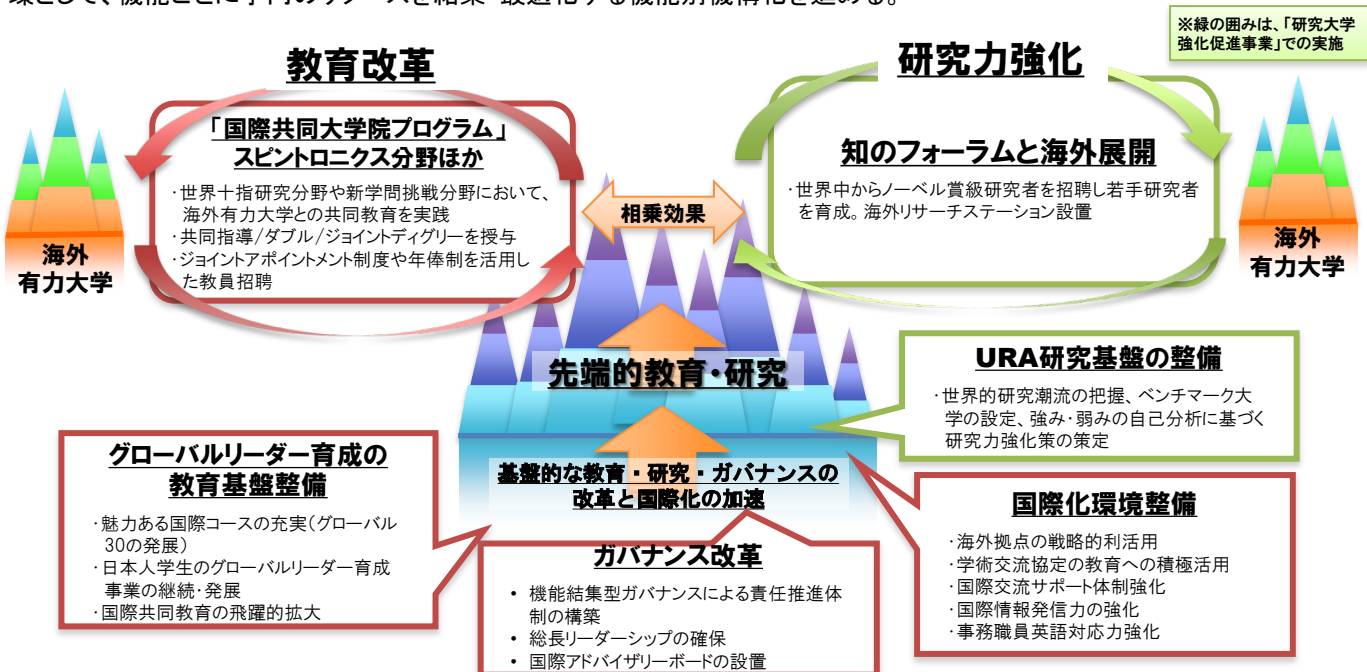
【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

東北大学を中核とする「知の国際共同体」を形成し、グローバル時代を牽引する卓越した教育研究を行う真の「ワールドクラスの大学へと飛躍」とともに、高度なグローバル人材の育成、イノベーションに繋がる諸科学・技術の創成、地球規模の課題に対する解決策と持続可能な発展の方策を示すことで、世界から尊敬される「世界三十傑大学」を目指す。

【構想の概要】

国内外から優秀な学生が「集い、学び、創造する」場を創出し、グローバルな時代を生きる若者が、本学の伝統である高い専門力はもちろんのこと、新時代のリテラシーとグローバルマインド等のコンピテンシーを修得できるような「グローバルリーダー育成の教育基盤整備」を加速する。そして、その基盤の上に、本学の強みのある研究分野や今後重要になり重点的に伸ばしたい分野について、海外有力大学との密接な連携のもと本学の教育力・研究力を結集して7つの「国際共同大学院プログラム」群を創設する。これらのプログラムにより、世界トップレベルの研究能力と広い視野、グローバルな感覚と経験を持ち、新たな知の創造、イノベーションの創出やグローバルな課題に挑戦する人材を育成する。さらに、「知のフォーラム」等の研究力の強化の取組と有機的に連携して、東北大学を中核とする「知の国際共同体」を形成する先進的研究教育クラスターを構築する。

この構想の実現のため、国際化の環境整備を一層進めるとともに、総長の意思を迅速に反映させる機動的体制整備の一環として、機能ごとに学内のリソースを結集・最適化する機能別機構化を進める。



東北大学グローバルイニシアティブ構想推進本部



東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議（国際アドバイザーボード）

グローバルリーダー育成の教育基盤整備

知のフォーラム、WPI-AIMR

国際化環境整備

高度教養教育・学生支援機構
＜平成26.4設置済＞

高等研究機構
＜平成26.7設置済＞

国際連携推進機構
＜平成26.10設置済＞

国際共同大学院プログラム

学位プログラム推進機構
＜平成27.4設置済＞

産学連携機構
＜平成27.4設置済＞

災害復興新生研究機構
＜平成23.4設置済＞

学内リソースの結集兼務教職員の参画

部局

10学部、16大学院、3専門職大学院、6附置研究所、12学内共同教育研究施設等、附属図書館、病院

【10年間の計画概要】

○ 運営体制の構築

H26年度に「東北大学グローバルイニシアティブ構想推進本部」を設置。運営体制を構築。H27年度「東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議(国際アドバイザリーボード)」設置。H28年度、H31年度、H35年度に外部評価実施。

○ ガバナンス改革

H26年4月設置済みの高度教養教育・学生支援機構に加え、国際連携推進機構(H26年10月設置)、学位プログラム推進機構(H27年4月設置)など、6つの機構を設置し、学内資源の結集のもと機能結集型ガバナンスを実行。IR機能の強化推進。

○ 国際共同大学院プログラム

H27年4月初めての国際共同大学院プログラムとして「スピントロニクス国際共同大学院(GP-Spin)」を設置。さらにデータサイエンス分野等少なくとも7つの国際共同大学院プログラムをH31年度までに設置。

○ グローバルリーダー育成の教育基盤整備

グローバル30で設置した国際学士・大学院コースである「Future Global Leadership(FGL)プログラム」や短期受入プログラムを拡充し多様で優秀な外国人留学生を受け入れる取組で外国人留学生数を増やすとともに、「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)」を継続的に実施し、海外研鑽と組み合わせながらグローバルリーダーの基礎的素養を身につける教育プログラムを発展。さらに、海外の大学との教育連携や、大学院レベルでのダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育を飛躍的に拡大。

○ 国際化環境整備

教職員・学生の国際流動性の向上と教育研究の国際連携強化のため、海外拠点・学術交流協定校・コンソーシアムを活用したグローバルネットワークの戦略的強化を実行。「国際連携推進機構」(H26年10月設置)のもとで、国際連携戦略の立案・実施、世界的なプレゼンスの向上・ランキング向上等に取り組む。国際広報発信力の強化(国際広報センターの設置)、海外からの受入体制の強化(国際サポート室の設置)、事務職員の英語対応能力の向上等により、国際化環境を格段に整備。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

「国際共同大学院プログラム」の創設

- 東北大学の強みを活かし世界を牽引できる分野や、今後重要になり人類の発展に貢献できる分野を選定
- これまでの教育組織の枠を超えて東北大学の英知を結集し、海外有力大学との強い連携のもと共同教育を実践

狙いと役割

- ①現代的ニーズにマッチし、かつ世界を牽引する高度な人材を育成
- ②研究力強化に繋がる先端的教育プログラムを創出
- ③将来の知的基盤の構築、国際競争力を支えるイノベーションの創出並びに、持続可能社会の実現などの地球規模の課題解決を牽引

概要

- 部局横断型／学位プログラム型の大学院プログラム
- 本学教員と国際連携先の大学教員による共同指導
- 共同指導／ダブル／ジョイントディグリーへ順次移行
- 5年以内を目途に少なくとも7プログラムを設置



【海外の大学との連携の推進方策】

○海外拠点・学術交流協定校・コンソーシアムを利活用したグローバルネットワークの形成
大学間協定206機関、部局間協定411機関(平成28年6月現在)、APRU等5つの大学間コンソーシアムを利用した海外トップレベル大学との連携の推進、研究に加えて教育機能を持った海外拠点(北米、アジア、ヨーロッパ)の展開によるグローバルネットワークの形成を推進。これらをもとに国際共同教育の拡大。

○知の国際共同体の形成

「国際共同大学院プログラム」と「知のフォーラム」等の研究力強化の相乗効果で教育・研究の海外有力校との連携による知の国際共同体の形成。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 国際連携推進機構の設置と国際化環境整備

本学のグローバル戦略を推進し、国際的プレゼンスを向上させるため教育研究における国際連携強化を一体的に行うことを目的として、「国際連携推進機構」をH26年10月に設置した。また、国際広報センターの機能を強化し国際発信力の高いホームページや英語版プロモーションビデオ等の広報資料を作成した。さらにH26年10月に国際サポート室を設置し、東北大学に来訪する外国人研究者・留学生向けに情報提供と、在留資格に関するサービスを一元化して行う体制整備を構築した。

○ FGLプログラムの継続実施

優秀な外国人留学生を受け入れる英語だけで学位が取得できる国際コース(学部・大学院)である「Future Global Leadership (FGL)プログラム」を継続実施した。

○ SAP等の短期海外派遣プログラムの充実

日本人学生に対するグローバル教育の柱の一つとして、全学のスタディアブロードプログラム(SAP)などの短期海外派遣プログラムや部局の特徴を生かした短期派遣プログラムの開発と実施に注力。H26年度は400名を超える学部学生が参加。さらに前年度初めて実施して好評だった「入学前海外派遣プログラム ~High School Bridging Program~」をH27年3月に実施した。



〈スタディアブロードプログラム〉

○ 実践的英語学習支援

日本人学生の実践的英語運用能力の向上のため、これまでの正課・正課外での英語授業の充実に加え、H27年度に課外での様々な英語学習支援を行う「東北大学イングリッシュアカデミー(TEA)」を開設した。

ガバナンス改革関連

○ 機能結集型ガバナンスのための機構化の推進

H26年4月設置の「高度教養教育・学生支援機構」に続き、「高等研究機構」(H26年7月)、「国際連携推進機構」(H26年10月)、「学位プログラム推進機構」(H27年4月)を設置し、他の2つの機構と合わせて、機能別に本学のリソースを結集した機構群を構築し、総長の意思を迅速に反映させるガバナンス体制を整備。

○ 事務職員の高度化の取組

事務職員の英語対応力強化を図るため、全ての職員が3年以内にTOEICを受験することを決定。H26年12月に実施した団体受験では、200名を超える事務職員・技術職員が受験。また、外部講師を招聘し職員がやる気になる「英語学習法セミナー」を実施。130名が参加した。

○ IR機能の強化

教育については高度教養教育・学生支援機構「教育評価分析センター」が、研究については「URAセンター」においてIR機能に基づく教育・研究の可視化に取り組んだ。さらに、こうしたIR機能の集約化について検討開始。

教育改革関連

○ 高度教養教育・学生支援機構による教養教育改革

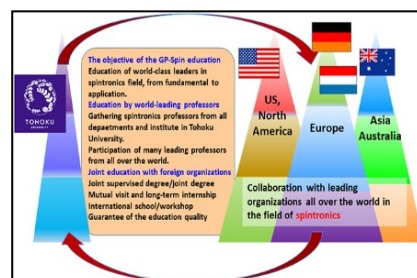
H26年4月に全学的教育・学生支援体制の戦略的再編として設置された「高度教養教育・学生支援機構」のもとで、グローバルリーダーの育成という観点から教育実践に関する調査・研究・開発・実施を一体的に行う体制を整備、教学マネジメントの強化を図っている。教育国際交流を担うグローバルラーニングセンターが教養教育組織に参画するユニークな組織を構成。

○ 国際共同大学院プログラムの開始

H26年度は最初の国際共同大学院プログラムである「スピントロニクス国際共同大学院(GP-Spin)」の開設準備を行った。共通講義などのカリキュラムを整備、海外連携先大学との交渉などを行い、H27年4月に開設。他のプログラムについても開設に向けた準備を開始。

○ グローバル化に向けた新たな入試の導入を決定

国際バカロレア入試や日本人学生を対象に英語で教育するためのグローバル入試の導入を決定、H29年度より実施予定。また拡大するAO入試の中で積極的にTOEFL等の外部試験を活用。



〈GP-Spin概念図〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 国際共同教育の拡大

ダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育の取組を強化した。海外協定大学からのダブルディグリー等での受入が進み、H27年度は47名となり大幅な増加。派遣の促進のため、国際共同教育や国際共同大学院プログラム学生に対する本学独自の奨励制度を制定しH27年度から実施。

○ 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けのグローバルリーダー育成プログラムを実施。国際共修ゼミや課題解決型授業、グローバルキャリアセミナー等多くの授業を開講した。TGLプログラムには学部1、2年生を中心に約2,000名の学生が登録。所定の条件を満たした学生を「グローバルリーダー」として認定。

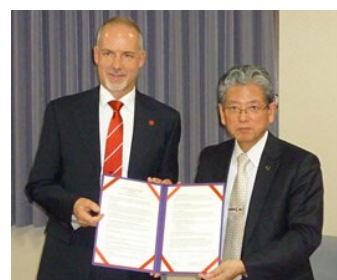


〈 TGLプログラム 〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

○ マインツ大学との「共同指導博士課程プログラム覚書」締結

スピントロニクス国際共同大学院の推進のため、H27年2月にヨハネスグーテンベルク大学マインツ(マインツ大学)との間で、共同指導博士課程プログラム(Jointly Supervised PhD program)に関する覚書を締結。今後、同様の覚書を他分野でも締結する予定。



〈 共同指導博士課程プログラム覚書調印式 〉

○ ケンブリッジ大学での東北大学ディ開催

H26年12月に英国・ケンブリッジ大学において東北大学ディを開催。両大学の大学紹介等を行うとともに、今後の学生・研究者交流を目的として共同声明の調印式を行った。また、グローバル安全学分野及び材料科学分野のワークショップを開催した。

○ 第4回日独6大学学長会議(ヘキサゴン)を東北大学で開催

H27年4月に日独6大学学長会議(HeKKSaGOn(ヘキサゴン))を東北大学で開催。「Building Venues for the Creation of new Knowledge」というテーマに沿って全体会議を行うとともに、8つの分野からなるパラレルワークショップを開催した。

【海外の大学との連携の実績】

○ 大学間コンソーシアムにおける活動:

海外有力大学とのコンソーシアムに主体的に参加。AEARU(東アジア研究型大学協会)年次総会(H26年11月)、T.I.M.E.(欧州トップレベルエンジニア養成)年次総会(11月)、RENKEI(日英産学連携スキーム)年次総会(12月)等に出席。3月に日露学長会議に日本側代表幹事校として参加。また、H27年4月にはHeKKSaGOn(日独6大学学長会議)を主催したほか、6月にはリヨン大学が主導するAlliance Internationale設立会合に参加した。

○ 海外協定校との連携強化:

ケンブリッジ大学における東北大学ディの開催(H26年12月)、多くの協定校が参加してSGUキックオフシンポジウムの開催(H27年2月)、ハーバード大学でのTohoku-Harvard Workshopの開催(H27年5月)等。

○ 海外拠点活動の充実:

海外拠点活動を通じて、拠点を設置している海外協定校等との連携強化。(モスクワ国立大学、ロシア科学アカデミーシベリア支部、リヨン大学、ケンブリッジ大学、UCリバーサイド校、シカゴ大学、バンドン工科大学、チュラロンコン大学(予定)等)

■ 自由記述欄

○ SGUキックオフシンポジウムの開催

本学のスーパーグローバル大学創成支援事業のキックオフシンポジウムをH27年2月に開催。マインツ大学、リヨン大学、ケンブリッジ大学、ケースウエスタンリザーブ大学、ワシントン大学、チュラロンコン大学等からゲストを招聘し、本構想を紹介するとともに、海外パートナー校との国際共同による新たな教育・研究について議論を深めた。国内外から約100名が参加。

○ 本構想のホームページ

<http://www.tohoku.ac.jp/sgu/ja/>



〈 SGUキックオフシンポジウム 〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 外国人教員・留学生の受入促進

- 外国人教員の雇用拡大を支援するため、「外国人教員等雇用促進経費(1億円)」を措置し、新規に雇用した外国人教員の人件費の一部を支援する取組を推進した結果、H27年度(5月1日)の外国籍教員の対前年度増加率は4.3%だったが、H28年度(5月1日)は13.5%と大幅に増加した。(H26年度:185人、H27年度:193人、H28年度:219人)
- グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコースの拡充のほか、半年～1年程度の交換留学プログラム、3か月未満のショートプログラム等の受入プログラムの充実とともに、国際交流サポート室の留学生支援を更に進めた結果、外国人留学生数がH26年度(通年)の2,177人からH27年度(通年)は2,938人と大幅に増加した。

2. 留学生OBによるワークショップ

2005年から2006年にかけて本学へ留学していた元交換留学生たちが本学への留学10周年を記念して集合し、2016年4月19日にワークショップを開催した。本学留学後、ジョンズ・ホプキンス大学や米NASA、仏エアバス社やAREVA社など、研究やビジネスの第一線で活躍する16名により「留学体験が自身のキャリアに与えた影響」などのプレゼンテーションが行われ、現役学生たちとの活発な意見交換を行った。



〈 JYPE International Mentorship Event 〉

3. 外国語による情報発信

国際広報センターでは、ネイティブスタッフによるこれまでの「英語版ウェブのリニューアルに伴うアクセス数2倍達成」「ソーシャルメディア6つの発足によるフォロワー1.3万人突破」等に加え、「本学研究成果等(英文記事)のEurekAlert・ResearchSEA等へのWeb拡散により、1万人の科学ジャーナリストに素早くリリースできる体制を整える」など、本学の海外発信力・国際的なプレゼンスの向上を高める取組を更に進めた。

ガバナンス改革関連

1. 国際アドバイザリーボードの設置

本事業の外部評価機関として設置される「東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議(国際アドバイザリーボード)」に関する規程等を整備するとともに、海外有力大学の学長クラスの有識者とグローバルに活躍する企業のビジネスリーダーからなる6名(H28年3月時点)の委員を任命した。

2. IR室の設置

教育、研究その他の本学の諸活動に関する多様なデータの効果的かつ効率的な集約及び分析等を行うことにより、本学の戦略的な大学経営の推進に資することを目的として、H28年1月に「東北大学インスティテューショナル・リサーチ室(IR室)」を設置し、4月1日で専任教員を配置した。

3. 事務職員の高度化への取組

職員の英語対応力強化を図るため、外部講師による6か月間の英語研修(40名程度)を実施した。受講者のうち約40%(16名)が本学目標(TOEIC700)を達成するとともに、約60%(24名)がTOEIC100ポイント以上のスコアアップを達成した。また、一定のスコア達成者のうち10名を豪州・シドニー大学への職員海外研修に派遣し、シドニー大学職員とのディスカッションやプレゼンテーション等のプログラムを履修した。本学国際化への更なる貢献が期待される。

教育改革関連

1. アクティブラーニング科目・国際化教育科目の拡充

演習・実習・実験・フィールドワーク等のアクティブラーニング科目である「展開ゼミ」や、言語や文化の異なる少人数の学生同士が、グループワークやプロジェクトといった「協働」を通じ多様性の受容・理解、新たな価値観を創造し、身に着ける事を目的とした「国際共修ゼミ」の科目数拡充を図った。(展開ゼミ:30科目→46科目、国際共修ゼミ:11科目→16科目) また、新入生の全員が受講する「基礎ゼミ(能動的学習への学びの転換科目・1クラス20人程度)」については、160を超えるテーマ(クラス)を全学出動態勢で10年以上に渡り継続的に提供・実施している。



〈国際共修ゼミの様子〉

2. 科目ナンバリング、GPA導入の決定

本学における「科目ナンバリング」と「GPA(Grade Point Average)制度」に関する学内規程を整備し、H28年度からの全授業科目での科目ナンバリング導入と学士課程入学者からのGPA導入を決定した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. 国際共同大学院プログラム

世界トップレベル大学との国際共同教育(学位プログラム)を飛躍的に推進するため、スピントロニクス分野においてはヨハネスグーテンベルク大学マインツ(マインツ大学)との共同教育プログラムを開始した。(在籍数:H27→7名、H28年4月→16名)また、環境・地球科学分野においては、H28年度から教育を開始する準備を進め、パイロット大学(独)と国際共同大学院教育プログラムを開始することについて合意した。



(GP-Spinセミナー)

(GP-Spin
オリエンテーション)

2. 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けのグローバルリーダー育成プログラムを実施し、H27年度は前年度を大幅に上回る2,091名(H26年度1,322名)の学生が参加した。

■ 国際的評価の向上につながる取組

1. メルボルン大学と戦略的パートナーシップ協定を締結

2016年2月に本学とメルボルン大学との間で戦略的パートナーシップ協定が締結され、学生、研究者、事務職員の相互交流等を行うことで合意した。

特に、2016年度はメルボルン大学を会場として共同リサーチワークショップを開催することが決定した。



〈メルボルン大学と協定締結〉

2. T.I.M.E. Association 年次総会の本学開催とAEARU等コンソーシアムへの参加

2015年10月に東北大学がT.I.M.E. (Top Industrial Managers for Europe) 年次総会を欧州以外の国で初めて主催した。会議では、日本の高等教育制度の紹介、ダブルディグリー・プログラムでエコール・セントラル・リヨン校から東北大学に来学した留学生と東北大学からスウェーデン王立工科大学に留学した学生から報告等が行われた。そのほか、AEARU(東アジア研究型大学協会)、RENKEI(日英産学連携スキーム)、APRU(環太平洋大学協会)の海外大学コンソーシアム年次総会等へ積極的に参加した。



〈T.I.M.E.: 里見総長のWelcome Address〉

3. アメリカ・ケースウェスタンリザーブ大学と大学間学術交流協定を締結

2015年10月にケースウェスタンリザーブ大学との大学間学術交流協定を締結した。本協定の締結により、データ科学国際共同大学院設立に向けて連携を図ると同時に、特にデータ科学分野の研究・教育についての協力が進むことが期待される。



〈右から里見総長、片山総領事、Snyder学長〉

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

○大学間コンソーシアムにおける活動:

本学が加盟するAEARU(東アジア研究型大学協会)・APRU(環太平洋大学協会)・RENKEI(日英産学連携スキーム)の年次総会等に出席。また、4月には、日独6大学学長会議(HeKKSaGOn)を、10月には、欧州域外では初となる欧州トップレベルエンジニアリング養成(T.I.M.E.)の総会をそれぞれ本学にて開催。また、7月には、APRUマルチハザードプログラムのサマースクールを本学が主催した。

○海外大学との連携強化:

4月に、ハーバード大学でTohoku-Havard Workshopを開催し、7月には、ケースウェスタンリザーブ大学で、大学間交流協定の締結に加え、データ科学シンポジウムを開催。11月には、本学で、モンタナ大学マンスフィールドセンターとシンポジウムを共催している。2月には、メルボルン大学と戦略的パートナーシップ協定を締結し、次年度に東北大学デイを開催することについて合意した。

○海外拠点活動の充実:

12月にベトナム・ハノイの貿易大学内に共同事務所を開設し、2月にタイ・バンコクのチュラロンコン大学内に、本学バンコクオフィスを設置した。

■ 自由記述欄

1. リエゾンオフィス、共同事務所の設置

2015年6月に本学がINSA-Lyonに設置するリエゾンオフィスに係る覚書をリヨン大学と締結するとともに、本学とINSA-Lyonで進める国際共同研究ユニット事業(Elyt Max)の取組について更に協議を進め、2015年11月にELyT MaXIに係る協定を締結した。

また、2015年12月にはベトナムの貿易大学(ハノイ)内に「東北大学ー貿易大学共同事務所」を設置し、現地にて開所式を行った。



〈リエゾンオフィス看板除幕式〉

2. 実践的英語学習支援

H27年度に課外での様々な英語学習支援を行う「東北大学イングリッシュアカデミー(TEA)」を開設し、英語学習アドバイザーを始めとして、ELS Language Centersの指導方法を基にした様々な英語学習プログラム(H28年度前期175名参加)を提供している。

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 外国人留学生の受入促進

グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコースの実施のほか、交換留学プログラム、国際共同大学院プログラム、海外拠点や国際広報センターをはじめとするリクルート活動の充実等を進めた結果、2016年5月1日現在の外国人留学生数(在留資格が留学の者)は1,944人で前年度より約280名増加するとともに11月1日現在では2,161人で前年度より約170名増加した。

● 海外留学経験者数の増加

短期海外派遣プログラム(Study Abroad Program)や、中長期の交換留学プログラムの拡充、東北大学イングリッシュアカデミーにおける英語学習支援、東北大学基金等を活用した渡航費用の支援(グローバル萩海外留学奨励賞)等を進めた結果、単位取得を伴う海外留学経験者数が平成27年度より約4割増加し、619名となった。



〈短期海外派遣プログラム〉

● 中国校友会幹部との懇談会を開催

2016年5月北京において本学の中国同窓会組織である「中国校友会」幹部との懇談会が開催され、総長及び担当理事が参加。中国校友会側からは、北京在住者を中心に約20名の会員が参加した。各出席者が、それぞれ自分の近況を報告するとともに東北大学や仙台で過ごした日々を懐かしむ発言が続き、大盛況に終わった。



〈中国校友会幹部懇談会〉

ガバナンス改革関連

● 国際アドバイザリーボード開催

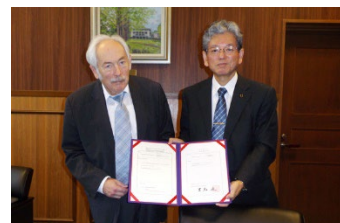
2016年11月に外部評価及び総長のトップダウンの意思決定を助けるための諮問機関として、海外の有識者を委員とする「東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議」(国際アドバイザリーボード)を仙台で開催した。当日は、海外大学と産業界の有識者6名の委員が出席し、教育・研究・ガバナンスの国際化に関する本学の進捗状況について総長ならびに担当理事等より説明と意見交換を行ったのち、各委員より本学国際化の更なる発展のための様々な助言をいただいた。



〈国際アドバイザリーボード〉

● 東北大学特別招聘プロフェッサーの称号を付与

2007年にノーベル物理学賞を受賞されたペーター・グリュンベルク教授に2016年5月「東北大学特別招聘プロフェッサー」の称号を付与した。特別招聘プロフェッサー制度は、本学の教授に採用したノーベル賞受賞者など国際的に著名な研究者に称号を付与し、教育研究活動のほか、その輝かしい業績をもとに、本学全体における教育研究の活性化に資する活動にも携わっていただくため平成27年3月に新設したものであり、グリュンベルク教授はその第1号となった。



〈特別招聘プロフェッサー称号付与〉

教育改革関連

● GPA制度、科目ナンバリングの導入

2016年度より全授業科目での「科目ナンバリング」を導入し、カリキュラムマップの作成による可視化を実現した。また、「GPA(Grade Point Average)制度」を学士課程入学者より決定した。

● AO入試やグローバル入試等の拡充

本学は、2000年度にAO入試を導入して以来、全募集人員に対するAO入試募集人員を年々充実させてきた。2016年度においては約20%に達し、国立大学の中では群を抜いた規模となっている。また、英語で学位が取得可能なコースを日本人(帰国生徒等)へ提供するグローバル入試を新たに導入した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

● 国際共同大学院プログラム

2015年度のスピントロニクス分野での教育に引き続き、2016年度には環境・地球科学分野でも教育を開始した(スピントロニクス分野17人、環境・地球科学分野12名)。2017年度からの教育プログラム開始に向けて、データ科学分野と宇宙創成物理学分野についても1期生の選抜を行い、データ科学分野で9人、宇宙創成物理学分野12人を選抜し新年度からの教育に向けて準備が整った。



〈環境・地球科学プログラム学生認定式〉

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けのグローバルリーダー育成プログラムを実施し、2016年度は前年度を大幅に上回る2,562名(2015年度2,091名)の学生が参加した。

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● 東北大学デイ(メルボルン)

2016年11月、オーストラリア・メルボルン大学において東北大学デイが開催され、総長、関係理事をはじめとして関係者約60名が出席した。本学とメルボルン大学との戦略的パートナーシップ・アクションプランに基づき、学生交流の覚書を追加した新たな学術交流協定更新の調印式、材料科学ワークショップ、事務職員の海外研修が行われた。2017年には、仙台において学術イベントの開催が予定され、今後、両校の益々の交流発展が期待される。



〈東北大学デイ(メルボルン大学)〉

● チュラロンコン大学(タイ・バンコク)に東北大学タイ代表事務所開設

2016年8月、タイ屈指の名門校であるチュラロンコン大学内に「東北大学タイ代表事務所」を設置し、現地にて開所式を行った。東北大学全学の海外代表事務所としては、北京、モスクワ、ノボシビルスクに続く4番目の事務所となった。留学生リクルーティングのほか、同窓会立ち上げ、共同研究の組織支援、現地企業とのインターンシップ開催など、代表事務所をハブとした交流環境の一層の充実が期待される。



〈東北大学タイ代表事務所開設〉

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● 大学間コンソーシアムにおける活動

平成28年度は2つの活動を主催。7月に17か国から50名の参加を得てAPRU(環太平洋大学協会)マルチハザードプログラムサマースクールを、9月に国内外から約100名の参加を得てAEARU(東アジア研究型大学協会)第11回 Web Technology and Computer Science Workshop を開催し、海外の研究者や学生との交流を図った。海外で開催される多数の活動に対しても本学の研究者や学生を派遣しており、APRU Global Health Case Competitionでは、本学の学生チームが第2位に入賞する成果を挙げた。

● 海外協定校との連携強化

上記メルボルン大学において東北大学デイ開催(11月)のほか、モンタナ大学が関連するエナジーサミットに研究者を派遣したりするなど、協定校と連携した活動を展開した。

● 海外拠点活動の充実

新たにタイのチュラロンコン大学内に本学の代表事務所を設立し、8月に開所式を行ったほか、高校生を対象としたリクルーティング活動を実施するなど、拠点を活用した活動を展開した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング 日本版において高い評価

2016年度に公表された「THE(Times Higher Education)世界大学ランキング 日本版」において、本学は「教育リソース」「教育満足度」「教育成果」「国際性」のいずれも上位を占め、総合順位において2位となった。長年にわたる本学の教育改革への取組、本学の教育力が高く評価された。



5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 外国人留学生の受入促進

グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコースの実施のほか、交換留学プログラム、国際共同大学院プログラム、海外拠点や国際広報センターをはじめとするリクルート活動の充実等を進めた結果、2017年5月1日現在の外国人留学生数(在留資格が留学の者)は2,027人で前年度より約100名増加するとともに11月1日現在では2,217人で5月1日時点より約200名増加した。

● ELYTMax@リヨン開所並びにELYT Global発足記念式典を開催

2018年3月、本学との大学間協定校である国立応用科学リヨン校(INSA-Lyon)において、ELYTMax@リヨン開所並びにELYT Global発足記念式典を開催し、総長及び担当理事が参加された。リヨン側からは、リヨン大学長、INSA-Lyon学長のほか、関係者約30名が参加した。ELYTMaxを中核としてドイツ、スウェーデン、中国の研究機関との多国間による共同研究と産学連携を指向したグローバルネットワークを構築するとともに、東北大学とリヨンとの更なる学術連携が期待される。



〈ELYTMax看板の序幕〉

ガバナンス改革関連

● 東北大学グローバルイニシアティブセミナーを開催

平成29年度は3回(5月、6月、10月)東北大学グローバルイニシアティブセミナーを開催し、グローバル人材育成における課外活動の教育的効果、国際共修、包括的国際化をテーマとして国内外の著名な講師を招へいし講演を行い、本学の今後の国際交流戦略を考察するうえで、有益な機会となった。

● 事務職員の高度化への取組

本学が目標としている英語力(TOEIC700点)を満たす専任職員数について、平成26年9月時点では3%であったが、英語学習法セミナー、eラーニングシステムを利用した研修、TOEICスコアアップ(700点突破もしくは100点アップ)を目的とした語学学校研修を行うことで、平成29年12月時点で7.8%まで向上した。また、一定のスコア達成者のうち10名を豪州・シドニー大学に派遣し、職員海外研修を実施した。本研修を通じ、大学職員の役割や働き方に接することで、国際的業務の必要性に対する意識の醸成を図るとともに多角的な視野や考え方を身に付け、本学国際化への更なる貢献が期待される。

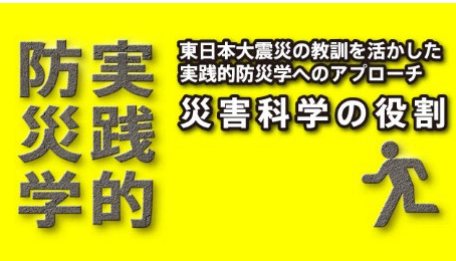


〈修了証書授与式〉

教育改革関連

● 東北大学MOOCの開講

本学では、「世界と地域に開かれた大学」「市民の知的関心を受け止め、支え、育んでいける教育研究活動を積極的に推進する大学」の実現を目指すため、平成28年度より東北大学MOOCを開講し、平成29年度は、【memento mori-死を想え-】【解明:オーロラの謎】の再開講に加えて、新規講座【東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ-災害科学の役割】を実施した。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

● 国際共同大学院プログラム

2015年度のスピントロニクス分野、2016年度の環境・地球科学分野での教育開始に引き続き、2017年度は、データ科学国際共同大学院に関しては9名、宇宙創成物理学国際共同大学院に関しては12名を選抜のうえ教育を開始した。本学が世界を牽引する分野において世界トップレベルの大学同士によるカリキュラムの協働と研究者交流、学生交流が行われることにより、教育力の向上と研究力強化がさらに促進されることとなった。



〈宇宙創成物理学プログラムのセミナー〉

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けのグローバルリーダー育成プログラムを実施し、2017年度は前年度を大幅に上回る2,873名(2015年度2,562名)の学生が参加した。

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● 清華大学-東北大学ジョイントワークショップ

2017年12月、清華大学-東北大学ジョイントワークショップを清華大学にて開催し、総長、関係理事をはじめとして関係者約50名が出席した。大学間学術交流協定における両校の連携をさらに強固な体制に位置付けていくことが合意され、特に来年は日中平和友好条約締結40周年であることや、本学と清華大学の大学間交流協定が締結(1998年)されてから20年の節目の年となることから、今回のワークショップに引き続き仙台での記念行事の開催を検討することが合意された。



〈清華大学-東北大学ジョイントワークショップ〉

● ワシントン大学-東北大学アカデミックオープンスペースを開所

2017年4月、全米屈指の名門校であるワシントン大学(シアトル)内に「ワシントン大学-東北大学アカデミックオープンスペース」を設置し、現地にて開所式を行った。東北大学全学の海外代表事務所としては、北京、モスクワ、ノボシビルスク、タイに続く5番目の事務所となった。

米国における本学のゲートウェーとして、様々な分野の研究者や企業を交えたワークショップ等を開催するなど、新たな交流・連携のマッチングの場としての国際的共同研究体制と産学連携の推進が期待される。



〈アカデミックオープンスペース開設〉

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● 大学間コンソーシアムにおける活動

7月に10か国から約40名の参加を得てAPRU(環太平洋大学協会)マルチハザードプログラムサマースクールを主催し、東日本大震災の経験や教訓を共有し、大学の防災における役割やキャンパスセーフティーについて議論を行った。また、海外有力大学とのコンソーシアムに主体的に参加し、AEARU(東アジア研究型大学協会)年次総会(H29年9月)、APRU(環太平洋大学協会)年次総会(7月)、RENKEI(日英産学連携スキーム)年次総会(4月)、JANET(Japanese Academic Network in Europe)FORUM2017等に出席した。

● 海外協定校との連携強化

上記清華大学においてジョイントワークショップ開催(12月)のほか、メルボルン大学とのTohoku-Melbourne Day開催(11月)など、協定校と連携した活動を展開した。

● 海外拠点活動の充実

新たに米国のワシントン大学内に本学の代表事務所を設立し、4月に開所式を行ったほか、5月に国立交通大学(台湾・新竹)にリエゾンオフィスを設置した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング 日本版において高い評価

2017年度に公表された「THE(Times Higher Education)世界大学ランキング 日本版」において、本学は「教育リソース」「教育満足度」「教育成果」「国際性」のいずれも上位を占め、総合順位において3位となった。長年にわたる本学の教育改革への取組、本学の教育力が高く評価された。



6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 外国人留学生の受入促進

グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコース実施のほか、交換留学プログラム、国際共同大学院プログラム、海外拠点や国際広報センターをはじめとするリクルート活動の充実等を進めた結果、平成30(2018)年度通年で外国人留学生数は3,405人(前年度比134人増)となり、本事業開始以降着実に増加している。

● ユニバーシティハウス青葉山開所

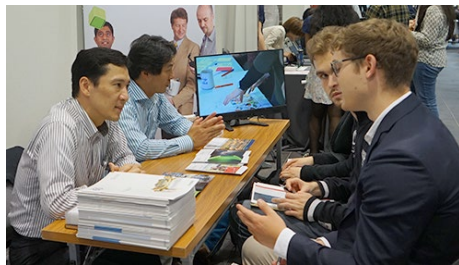
平成30(2018)年9月に国際混住型学生寄宿舍となるユニバーシティ・ハウス青葉山(定員:752人)が新たに完成し、10月より入居を開始した。これにより、本学における国際混住型学生寄宿舍の総定員は1,700人を超え国内最大規模となった。

● 留学生と外資系企業のための交流会を開催

JETRO及び東北イノベーション人材育成コンソーシアムとともに、東北地域に滞在する外国人留学生ら約100名と外資系企業13社との交流会を開催した。学生にグローバルな企業選択の可能性を提示することで、今後のキャリアデザインの一助となることが期待される。



〈ユニバーシティハウス青葉山〉



〈留学生と外資系企業との交流会〉

ガバナンス改革関連

● 東北大学ビジョン2030を公表

2030年に向けた東北大学のあるべき姿(ビジョン)と、その実現を目指した中長期の方針(重点戦略)や具体的なアクション(主要施策)を定めた「東北大学ビジョン2030」を発表した。『教育』『研究』『社会との共創』『経営革新』の4つを柱とし、それらを実践する19の重点戦略を定めている。

● 国際戦略室の設置

国際展開への諸活動についてより戦略的かつ包括的な取組へと転換することを目的として、新たに国際戦略室を設置した。

● 東北大学グローバルイニシアティブセミナーを開催

平成30(2018)年度は2回(7月、3月)開催し、高等教育の国際化やグローバル人材育成をテーマとして国外の著名な講師を招へいし講演を行った。本学の今後の国際交流戦略を考察するうえで、有益な機会となった。



〈「東北大学ビジョン2030」の発表〉



〈グローバルイニシアティブセミナー〉

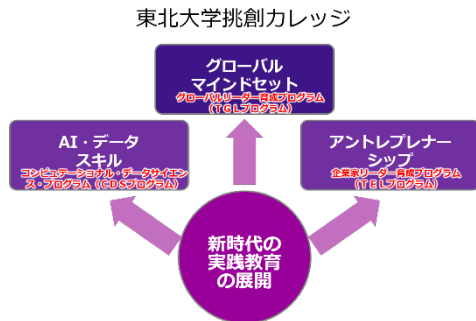
教育改革関連

● 現代的教育プログラム「東北大学挑創力レッジ」の創設

東北大学ビジョン2030で掲げた教育目標を実現するため、変革期に生きる学生のための新たな全学教育プログラムとして、「東北大学挑創力レッジ」を2019年度より開講することを決定した。主に1、2年生を対象とした①グローバルマインドセット、②AI・データスキル、③アントレプレナーシップに関する3つのトラックによる実践的教育を通して、学生の「挑戦する心」に応え大きく伸ばすことが期待される。

● 国際教育科目委員会の設置

東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)において拡充・発展してきたグローバル教育科目を体系化し一体的に取り扱うことを目的として、学務審議会科目委員会のもとに「国際教育科目委員会」を新たに設置した。国際共修実践ガイドラインの公表、モデルシラバスの提示、FDやシンポジウムの実施等を通じて、本事業終了後も持続可能なグローバル教育の体制整備が構築されている。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

【東北大学】

● 国際共同大学院プログラム

平成29(2017)年度のデータ科学国際共同大学院、宇宙創成物理学国際共同大学院に続き、平成30(2018)年度は生命科学(脳科学)国際共同大学院(9名)、機械科学技術国際共同大学院(18名)において教育を開始した。本学が世界を牽引する分野において世界トップレベルの大学同士によるカリキュラムの協働と研究者交流、学生交流が行われることにより、教育力の向上と研究力強化がさらに促進されることとなった。

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)では、グローバルリーダー認定者は年々増加しており、平成30(2018)年度は27名(前年度比9名増)に対してグローバルリーダー認定証を授与した。本事業でリーダー認定した多くの学生達が卒業後、世界を舞台として活躍することが期待される。



〈GP-Mech授業の様子〉

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● 国際学長会議等への参加

日本・ドイツの有力校6大学で構成される日独6大学ネットワーク(HeKKSaGOn)学長会議をはじめとして、日露大学協会総会(日露学長会議)、第22回環太平洋大学協会(APRU)年次学長会議等に参加し、本学の国際的な評価とプレゼンスの向上を図った。

● 東北大学ベトナム同窓会発足

ベトナムのハノイで東北大学ベトナム同窓会が設立し、記念式典およびセミナーを開催した。海外同窓会としては7番目となり東北大学ネットワークのさらなる国際的広がりが期待される。当日は、本学主催のベトナム人高校生対象のコンテスト「TU Future Global Leadership (FGL) Challenge in Vietnam」の決勝プレゼンテーションも行われた。

iversity Alumni Association in

Hanoi, February 23rd 2019



〈東北大学ベトナム同窓会:
右から大野総長、ベトナム同窓会Viet会長、
チュイロイ大学Thu学長〉

● 東北大学SDGsシンポジウムの開催

東北大学SDGsシンポジウム「持続可能な開発目標(SDGs)の達成とグローバル人材」が開催され、東日本大震災など災害の経験も踏まえた「社会とともにある大学」としての本学のSDGsの取組が紹介され、本学の国際プレゼンスの向上が期待される。

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● UCL-東北大学キックオフ・パートナーシップイベント開催(2018年10月)

英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)においてUCL-東北大学キックオフ・パートナーシップイベントを開催し、東北大学の訪問団約50名とUCL関係者約40名の合計約90名が出席した。両校の連携について、今後さらに戦略的かつより強固なものに発展させることが合意された。



〈UCL-東北大学キックオフ・パートナーシップイベント〉

● 第2回東北大学-清華大学ジョイントワークショップ開催及び清華大学学生訪問団の来訪(2018年7月)

第2回東北大学-清華大学ジョイントワークショップが本学で開催され、中国の清華大学からの訪問団約60名と本学関係者約60名の合計約120名が出席した。

昨年度(第1回)の材料科学とスピントロニクス分野に加え、新たに災害科学分野のセッションが開催され、より幅広い分野で両大学の研究交流が行われることとなった。また、同日程で清華大学の学生訪問団66名と本学学生との交流イベントも実施し、折り紙を使ったコンペ方式のワークショップが行われた。

● UCLならびに清華大学とのマッチングファンド(共同研究ファンド)実施

東北大学とUCLならびに清華大学の研究者が共同で行う研究・交流活動を支援するために、両大学の共同研究を促進・奨励するための「共同研究ファンドの設立」について合意され、プロジェクトの募集を開始した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング 日本版において高い評価

2018年度に公表された「THE(Times Higher Education)世界大学ランキング 日本版」において、本学は「教育リソース」「教育満足度」「教育成果」「国際性」のいずれも上位を占め、総合順位において3位となった。長年にわたる本学の教育改革への取組、本学の教育力が高く評価された。



7. 取組内容の進捗状況(令和元(2019)年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 外国人留学生の受入促進

グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコース実施のほか、交換留学プログラム、国際共同大学院プログラム、海外拠点や国際広報センターをはじめとするリクルート活動の充実等を進めた結果、令和元(2019)年度通年で外国人留学生数は3,548人(前年度比143人増)となり、本事業開始以降着実に増加している。

● 外国人教員・研究者の雇用促進

総長裁量経費を財源とする「外国人教員雇用促進経費」(1.1億円/年)のほか、「クロスアポイントメント活用促進支援制度」(2億円/年)及び「若手女性・若手外国人特別教員制度」(2億円/年)を新設し雇用を支援した結果、外国籍教員数は平成27年度比で37.3%増となる265人まで拡充した。

● 留学生ヘルプデスク開設

留学生の生活や修学に関する質問や相談に関するワンストップ窓口として「留学生ヘルプデスク」を2019年度に開設した。日本人と外国人の先輩学生が常駐し相談を受け付けており、ピアサポート促進と留学生への支援が益々充実されることとなった。



〈英語で学位取得可能な国際学士コース〉



〈留学生ヘルプデスク〉

ガバナンス改革関連

● 国際アドバイザリーボード(第2回)を開催

2019年10月に本事業の外部評価となる「東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議」(国際アドバイザリーボード)を仙台で開催した。本会議は2016年度に続き2回目となる。当日は、英国のユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)のMichael Arthur学長を始めとする海外大学と産業界の有識者9名の委員が出席し、教育・研究・ガバナンスの国際化に関する前回会議からの進捗状況について総長ならびに担当理事等より説明と意見交換を行い、各委員より本学国際化の更なる発展のための様々な助言をいただいた。



〈国際アドバイザリーボード(第2回)〉

● 国際戦略の策定、公表

東北大学国際戦略室では、2018年11月策定の「東北大学ビジョン2030」で示された「戦略的な国際協働の深化(重点戦略⑰)」を実現すべく、さらなる国際化に向けた指針と行動計画を明示することを目的として「東北大学国際戦略」を2019年度に策定、公表した。

教育改革関連

● 東北大学と米国ETSが英語教育に関する連携覚書を締結(日本初)

これからの時代を担う人材に不可欠な高度な英語力の育成に向けて、米国非営利法人Educational Testing Service(ETS)との間で、日本の大学法人として初めて、英語教育と研究に関する覚書に2019年7月に調印した。東北大学の全学教育では、ETSが開発・提供しているTOEFL®のコンテンツを学部1~2年次の英語教育の中心に据えた、新しいカリキュラムと教育方針に沿った英語教育改革を2020年度より開始する。



● 学位プログラム推進機構が推進する「学位プログラム」の拡大

学際的、横断的な学位プログラムを束ねる組織として平成27年度に設置した「東北大学学位プログラム推進機構」では、国際共同大学院プログラムや卓越大学院プログラムを代表とする、研究科・国境・セクターを超える先進的な大学院教育プログラムを全学展開しており平成27年度の3プログラムから令和2年4月までには14プログラムまで拡大している。



〈国際共同大学院プログラム認定式〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

【東北大学】

● 国際共同大学院プログラム

2019年度は新たに日本学国際共同大学院(4名)、材料科学国際共同大学院(14名)、災害科学・安全学国際共同大学院(12名)において教育を開始した。これで9分野での国際共同大学院(総勢197名)が創設・教育開始されたこととなり、世界トップレベルの大学同士によるカリキュラムの協働と研究者交流、学生交流が行われることにより、教育力の向上と研究力強化がさらに促進されることとなった。



〈国際共同大学院プログラム〉

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

2019年度は23名に対してグローバルリーダー認定証を授与した。本プログラム開始後のリーダー認定者は100名を超えており、卒業後世界を舞台として活躍することが期待される。

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● STSフォーラム大学長会議を主催

2019年10月に京都で開催されたSTSフォーラム2019総会におけるセッションの一つとして開催された大学長会議を東北大学が主催した。会議は、「How Universities Engage with and Contribute to Social Issues such as SDGs with respect to Education and Research」のテーマのもと、世界から約70大学の学長等が出席し、東北大学大野総長は、大学間学術交流協定校である英国のユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)のMichael Arthur学長とともに共同議長を務めた。



〈STSフォーラム大学長会議〉

● 国際会議への出席

第23回環太平洋大学協会(APRU)年次学長会議、第25回東アジア研究型大学協会(AEARU)年次総会、第7回日独6大学アライアンス(HeKKSaGOn)学長会議、第5回日本・インドネシア学長会議、第2回日露大学協会総会(第8回日露学長会議)、第11回日中中学長会議といった各種国際会議へ参加し、本学の国際的評価とプレゼンスの向上につながった。



〈第23回環太平洋大学協会(APRU)年次学長会議〉

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● マッチングファンド(共同研究ファンド)プロジェクトの新たな実施

2019年度に開始した、東北大学ー清華大学(中国)ならびに東北大学ーUCL(英国)とのマッチングファンド設立による共同研究プロジェクトに続き、2020年度には新たに東北大学ーローレンス大学(仏国)との共同研究プロジェクトを開始することを決定した。世界有力大学との共同研究の一層の発展が期待される。

● Letter of Intentの調印

2019年6月にフランス・ローレンス大学と学術協力を目的としたLetter of Intentに調印した。この調印に基づき、2019年9月にはローレンス大学との共同ワークショップが開催され、長年交流実績のあるスピントロニクスや数学を始めとする研究ワークショップのほか、国際交流や留学生交流担当者間によるワークショップも開催された。

また、2019年9月には米国・パデュー大学との間でも量子工学、スピントロニクス、材料科学分野の更なる学術連携を目的にLetter of Intentが締結された。



〈ローレンス大学とのLetter of Intentの調印式の様子〉

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング日本版2020で第1位に選出

Times Higher Education (THE) が発表する「THE世界大学ランキング日本版2020」において、本学が1位に選出された。「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」のいずれの評価指標においても上位に位置付けられたが、特に「国際性」については、前年度より大きく評価を上げたことが、総合評価1位へとつながった。



8. 取組内容の進捗状況(令和2(2020)年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

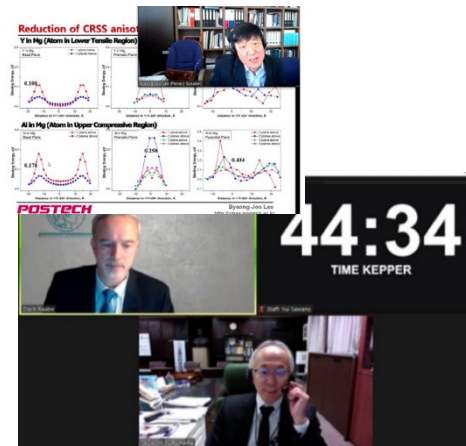
● 若手研究者、外国人教員及び女性教員等の人材多様化推進

総長、プロボストのリーダーシップに基づき、優秀な若手研究者への支援事業(12億円)、外国人教員及び女性教員等の人材の多様化(ダイバーシティ)の推進事業(3.3億円)等を継続的に支援しており、高等研究機構に設置した材料科学、スピントロニクス、未来型医療、災害科学の世界トップレベル研究拠点をはじめとする若手研究者数・比率、女性教員数・比率ならびに外国人教員数・比率ともに本事業開始後大幅に向上している。

若手研究者：平成27年度：515名、22.7%→令和2年度：572名、24.3%
女性教員：平成25年度：392名、12.6%→令和2年度：544名、16.9%
外国人教員等：平成25年度：785名、25.2%→令和2年度：1,115名、34.7%

● 博士課程における留学生比率向上

新型コロナウイルスの影響で留学生の受入れや新規渡日が制限される中にあっても、オンラインを活用した現地入試～入学手続き～授業・研究指導等を積極的に進めたことにより、博士後期課程での留学生比率は平成28年度の22.6%から令和2年度は29.1%まで向上している。



＜材料科学研究拠点 第4回シンポジウム＞

ガバナンス改革関連

● 「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」の策定

令和2年7月に、新型コロナウイルスの克服、New Normal 時代を見据えた新たな社会構築への貢献と新常态のもとでの社会変革を先導すべく、「東北大学ビジョン2030」の更新を行い、教育、研究、社会との共創、さらには業務全般のオンライン化を強力に推進する「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」を策定し、ポストコロナ時代を見据えた大学改革にスピード感をもって対応している。



＜東北大学チャットボット＞

● コロナ禍における業務のDXの推進

令和2年6月に、総長及びプロボストのリーダーシップの下、ニューノーマルを見据えた新たな取組として、「窓口フリー」、「印鑑フリー」、「働き場所フリー」の3つの柱で構成される「オンライン事務化」を日本の大学として初めて宣言し業務のDX化を推進している。取組の一つとして、令和3年3月に多言語対応のチャットボットを導入しており、本学の窓口業務のオンライン化を実現し、コロナ禍における学生サービス等が向上している。

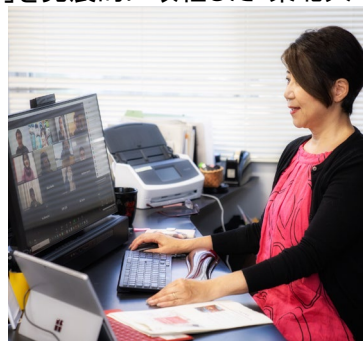
教育改革関連

● 学位プログラム群の展開と「東北大学高等大学院」への発展

国際共同大学院プログラムをはじめとする既存の14プログラムに加え、産学共創大学院プログラムで新たに変動地球共生学(SyDE)卓越大学院プログラムを開講し、令和2年度までに多様な学位プログラムを計15に拡大して実施した。これら学位プログラムを全学的に束ねてきた「学位プログラム推進機構」を発展的に改組した「東北大学高等大学院機構」の設置を決定し、令和3年4月より活動を開始している。

● 東北大学Be Global プロジェクト

令和2年4月にコロナ禍で浮き彫りになった課題に挑戦し、ニューノーマル時代におけるグローバル人材を目指す学生への学習・生活を支援するため、令和2年4月より4つのユニット(①オンライン海外留学 ②オンライン国際共修 ③オンライン留学生教育 ④オンライン留学生支援)から構成される新たな国際教育支援プロジェクト「Be Global」を立ち上げ、新たな国際教育を先導している。



＜オンライン国際共修の様子＞

● 東北大学緊急学生支援パッケージによる支援

令和2年4月に新型コロナウイルス感染症の拡大により生活が困窮している学生や、遠隔授業を受ける体制が整っていない学生に対する緊急学生支援パッケージ(総額4億円)を迅速に開始し、留学生384人を含む3,582人の経済支援を行うとともに、学生参加型ピアサポーター制度(留学生121人含む2,289人のサポーター)を構築し新入学生を含む多様な学生生活を支援した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

● 国際共同大学院プログラム

平成27年度に開講したスピントロニクス分野をはじめとする9プログラムでは、海外有力大学とJointly Supervised Degree/Double Degreeに関する覚書を締結し、強力な連携のもとに共同教育を実施しており、プログラムに係る在籍者数は平成27年度の7名から令和2年度には235名に増加している。令和2年度は、オンラインによる海外研究者・学生とのセミナーやワークショップを86件実施した。特に材料科学分野においては、ヴァーチャルリアリティを利用したポスターセッションを実施するなどニューノーマルの時代における新たなシンポジウムの在り方を開拓した。これらの国際共同大学院プログラムでは、令和2年度に新たに29名の修了者を認定し、すでに海外大学等でアカデミアとしてキャリアパスを形成している。



＜国際共同大学院＞

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● グローバルウェビナーシリーズの開催

ポストコロナ時代における海外との連携協力と国際発信の重要な手段として、本学が主導して開催するオンラインでのシンポジウムやセミナー等の国際会議を積極的に支援し、本学の研究成果や各種の取組みの国際発信を強化する「東北大学グローバルウェビナーシリーズ」(Tohoku University Global Webinar Series; TUGW Series)を実施し、令和2年度は9プログラムを開催した。



＜防災学の世界的権威Prof. David Alexander (UCL)によるウェビナー＞

● APRU Virtual Student Exchangeプログラムへの参画

APRUの実施するオンライン交換留学による単位互換プログラム「Virtual Student Exchange: VSE」事業に創設メンバーとして参画し、本学におけるオンライン交換留学の新たなモデルを創出した。単位取得を伴うプログラムでは本学より9科目を提供し、APRU加盟大学から11名が履修登録するとともに、単位取得を伴わないオンラインプログラム「Co-curricular Programs」においては、合計14件の講義やイベントを提供するなど、延べ529名の参加があった。



＜APRU VSE＞

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● 戦略的国際共同研究ファンドの推進

海外有力大学との「戦略的国際共同研究ファンド」を設立し、平成30年に中国 清華大学、英国 University College London (UCL)、令和元年にフランス ロレーヌ大学との間で合意に至り、これまでに全38件のプロジェクトを推進している。令和2年度においては、清華大学との間で、新規4件のプロジェクトを含む10件のプロジェクトを実施した。清華大学ならびにロレーヌ大学とは令和2年度にオンラインによるジョイントワークショップ、共同会議も実施しコロナ禍においても着実な研究成果をあげていることが報告された。



＜東北大学ーロレーヌ大学共同会議2021＞

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● 令和2年度中間評価において「S評価」を獲得

東北大学は、令和2年度に実施された文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の第2回中間評価において、最高評価である「S評価」を獲得した。本事業で実践してきた研究力強化と国際共同大学院プログラム等を通じた教育改革との相乗効果の取組が高く評価された。

● THE世界大学ランキング日本版2021で2年連続第1位に選出

Times Higher Education (THE) が発表する「THE世界大学ランキング日本版2021」において、本学が1位に選出された。1位選出は、2020年に続いて2年連続となる。「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」のいずれの評価指標においても上位に位置付けられたが、特に「国際性」については、前年度より更に大きく評価を上げたことが、2年連続総合評価1位へとつながった。



9. 取組内容の進捗状況(令和3(2021)年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 国際的人事戦略による優秀な若手研究者の躍進

令和元年度に実施された第2回国際アドバイザリーボードによる助言をもとに、国際的に活躍する優秀な若手研究者の育成を目的として、学生から若手研究者に至るまで年間33億円規模のシームレスな総合支援を実施している。
代表的な取組みである「プロミネントリサーチフェロー制度」には、89名の助教に称号を付与し独立研究環境整備を促進している。これらの取組により、文部科学大臣表彰若手科学者賞を令和3年度に11名(全国2位)、令和4年度に14名(全国1位)、日本学術振興会賞を令和3年度に5名(全国2位)が受賞するなど、若手研究者の果敢な挑戦が高く評価されている。



＜東北大学若手躍進イニシアティブ宣言＞

● 国際サポートセンターの創設

本学で受入れる外国人研究者や留学生に対する生活支援のための全学的組織として2022年4月に国際サポートセンターを創設した。在留資格認定書の発行業務のほか区役所や銀行での手続き同行、生活必需品の購入の手伝いなど、生活開始に伴う各種手続を一元的かつ包括的に支援することにより、外国人研究者や留学生が東北大学での生活を快適に開始できるよう、また、受入研究室での負担が解放されて教員が研究教育活動に専念できることを目指す。
<https://sup.bureau.tohoku.ac.jp/supportcenter/>

ガバナンス改革関連

● 東北大学ダッシュボードを活用したエビデンスベースの大学経営

東北大学ビジョン2030や指定国立大学法人構想等の着実な実現に資するべく、中期目標・中期計画や指定国立大学法人構想のKPI等に関連する指標を新たに50項目以上の経時変化を「東北大学ダッシュボード」として瞬時にグラフ等で可視化し、進捗管理を効率的に行うとともに、学内の部局評価にも連動させる体制を構築した。

● 東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言

男女共同参画推進に向けた取組を引き続き強力に実施するとともに、性別・性的指向・性自認等にとらわれない、構成員の多彩な能力を最大限発揮できる包摂的な環境を整備するため、2022年4月に「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言」を発出した。



＜東北大学DEI推進宣言＞

教育改革関連

● 新しい教養教育のスタート

2022年度より、東北大学の教養教育「全学教育」の新しいカリキュラムがスタートした。未来社会に立ち向かうために必要な基盤となる学士課程教育を構築し、初年次から高年次学生、大学院生までを接続するカリキュラムと、現代的なリベラルアーツを体系化した分野横断型カリキュラムを実現している。本カリキュラムにより 情報通信技術(ICT)の高度化、グローバル化などの社会状況や教育環境の変化に対応した授業を推進することを目指す。

● 大学の国際化促進フォーラムの支援プロジェクトに選定

2021年度に形成された「大学の国際化促進フォーラム事業」において、本学は国内最大規模の国際共修の実績・強みを活かし、カリキュラムの国内外への横展開・発信を目的とした「国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開(ICLプロジェクト)」を幹事大学として国内連携大学とともに選定された。2021年度は、①連携大学によるコンソーシアムの創設(ICL-Channels) ②2022年度の授業交流に向けた単位互換協定の締結 ③課外学生交流活動の共同実施 ④成果発表のためのシンポジウムなどを実施した。
<https://intercul.ihe.tohoku.ac.jp/icl/>



＜ICLプロジェクト＞

■ 大学独自の成果指標と達成目標

【東北大学】

● 国際共同大学院プログラム

2015年度に開講したスピントロニクス分野をはじめとする9プログラムでは、海外有力大学とJointly Supervised Degree/Double Degreeに関する覚書を締結し、強力な連携のもとに共同教育を実施しており、プログラムに係る在籍者数は2015年度の7名から2021年度には266名に増加している。修了者も2019年度に14名、2020年度に29名、2021年度に34名の修了者を認定し、すでにパイロイト大学、ハワイ大学、スイス連邦工科大学、パデュー大学等でアカデミアとしてキャリアパスを形成している。さらに、2022年度より10番目のプログラムとなる「統合化学国際共同大学院プログラム(GP-Chem)」を創設し、4月より教育を開始した。



<国際共同大学院>

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)

「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)」では、グローバルリーダー認定者数が年々増加しており、2021年度末時点で累計170名に上る。グローバルリーダーの認定を受けた者は、グローバル企業や国際機関等を進路としており、本プログラムの掲げる教育目標が実を結びつつある。



<TGLプログラム>

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● 海外拠点の戦略的活用に基づく海外同窓生との連携強化

本学の海外展開に資するキーパーソンの発掘と永続的な連携のチャネルを維持する仕組みを確立するため、海外同窓生向けのプラットフォーム(ウェブサイト)を新たに構築し、令和3年3月より運用を開始した。同プラットフォームは一部のコンテンツの閲覧を限定公開とする会員登録制としている。令和3年6月及び12月には、プラットフォーム会員を対象としたオンライン交流会を開催した。



<Tohoku University Alumni Network>

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● 日独6大学アライアンス(HeKKSaGOn)学長会議を主催

2021年9月に第8回日独6大学アライアンス(HeKKSaGOn)学長会議を、東北大学主催でオンライン開催した。アカデミック・カンファレンスのライブ配信、若手研究者向けヴァーチャル・ポスターセッション、日独学生によるグループワークショップ等を実施した。また、パンデミックや自然災害という全世界が直面する困難を克服するため、大学には包括的かつ分野横断的な知を集結させ研究成果を社会に発信し還元する責務があることを再確認し、共有した事項を、日独6大学学長会議共同声明として発表した。



<日独6大学アライアンス学長会議>

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング日本版2022で3年連続第1位に選出

Times Higher Education (THE) が発表する「THE世界大学ランキング日本版2022」において、本学が1位に選出された。1位選出は、2020～2021年に続き3年連続となる。「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」のいずれの評価指標においても上位に位置付けられたが、特に「国際性」について更に大きく評価を上げたことが、3年連続総合評価1位へとつながった。



● 国際化促進フォーラム代表幹事校に選出

国際化を牽引する大学群の多様な実績の横展開・連携を強化する環境を整備し、ニューノーマルに向けた高等教育の更なる国際通用性・競争力の強化を目指す「大学の国際化促進フォーラム(会員校約130校)」に参画するとともに、本学は同フォーラムの代表幹事校に選出された。

10. 取組内容の進捗状況(令和4(2022)年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 国際サポートセンターによる外国人構成員への生活支援体制の一元化

本学で受入れる外国人研究者や留学生に対する生活支援の一元的窓口として2022年4月に国際サポートセンターを創設、活動を開始し入国前から渡日後に係る生活支援を一元的・包括的に支援する体制を整え、初年度となる2022年度は1,145件の生活支援を提供した。利用者アンケートでは、実に88%の利用者が支援内容に「満足」と答えており、研究室の負担を大きく軽減するとともに、外国人構成員がいち早く研究教育活動に専念できる環境を整えることに大きく寄与している。



<国際サポートセンター>

● 全学的支援体制による外国人教員等の着実な増加

外国人教員雇用を促進するため「外国人教員雇用促進経費」を独自財源で継続的に措置することで、2022年度までに本制度により外国人教員185名が雇用されている。また、2019年度から開始した「クロスアポイントメント活用促進支援制度」や「若手女性・若手外国人特別教員制度」も創設し、同制度により110名の外国人教員を雇用了。上述の国際サポートセンターの創設効果もあり、外国籍教員等数は2016年度の921名から2022年度は1,121名(21.7%増)まで着実に増加しており国際化が進んでいる。

ガバナンス改革関連

● 東北大学国際アドバイザーによるレビュー体制

本学の将来展望や経営戦略、各種課題等について助言を得るため、国際的な知見と高い専門性を持つ海外有識者5名(いずれも外国人)を国際アドバイザーとして選任した。本学の取組や将来ビジョンなどに対するディスカッションの機会を定期的に設け実施している。海外有識者による国際的で多角的な視点でのレビュー体制を構築することで、世界トップレベル研究大学に比肩する知識経営体への深化が進んだ。



<国際アドバイザー>

教育改革関連

● 国際共修の国内外への横展開

「大学の国際化促進フォーラム事業」選定された「国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開(ICLプロジェクト)」による単位互換交流を本格的に開始し、2022年度は協定を締結する6大学から計26科目の提供があり約120名が履修した。また、教職員によるFDも開催し、授業における指導方法、新たな授業実施方法に関する開発も進んでいる。多様な価値観のなかで学び合う国際共修プラットフォームが着実に形成されている。



<ICLプロジェクト>

● 国際教養大学と包括連携協定を締結

2023年3月に国際教養大学(秋田)と包括連携協定を締結した。互いの大学が持つ特徴、強み、ネットワークを共有することで、双方の教育・研究力を強化し東北の地から次のグローバル社会を担う人材輩出を目指すことを目的としている。東北大学入学予定者20名が国際教養大学での入学前研修プログラムに参加する取組が協定締結に先立ち既に実施され、2023年度以降教育や研究、地域・社会貢献に関して、さらに連携が深まることが期待される。



<左：包括連携協定締結式>



<右：入学前研修プログラム>

■ 大学独自の成果指標と達成目標

● 国際共同大学院プログラムの進展と日本学国際共同大学院のプレゼンス向上

海外有力大学との協働による本プログラムでは、令和4年度には45名の修了者を認定し、パイロイト大学、ハワイ大学、スイス連邦工科大学、パデュー大学等でアカデミアとしてキャリアパスを形成し、グローバルネットワークの強化に貢献している。特に2022年度は、日本学国際共同大学院の海外ネットワークである「支倉リーグ」(本学と海外25大学が参画)を主体とする支倉シンポジウムならびに支倉サミットを仙台で開催した。海外14か国25大学から43名の教員・学生を仙台に招き、21世紀の人文・社会科学の国際・学際的連携や社会貢献について議論した。支倉サミットの終わりには、8大学の首脳陣の連名によるグローバル・コミュニティにおける人文・社会科学の意義と役割を「支倉宣言」として世界へ発信した。



<支倉シンポジウム (上)>
<支倉サミット2022 (下)>

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)

「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)」では、グローバルリーダー認定者数が年々増加しており、2022年度末時点で累計202名に上る。グローバルリーダーの認定を受けた者は、グローバル企業や国際機関等を進路とするなど、本プログラムが掲げる教育目標の実現が着実に進んでいる。



<TGLプログラム>

■ 国際的評価の向上につながる取組 (タイプAのみ)

● 創立115周年、総合大学100周年記念事業

東北大学は創立 115 周年、総合大学としての歩みを始めて100年という節目を迎えたことから、2022年9月30日～10月2日に記念行事を開催した。これを記念し、海外ステークホルダーとの連携強化を目指し、国外において顕著な業績を有する同窓生・同窓会等を顕彰する「東北大学国際功労賞・海外同窓会アワード」を創設し、6個人、3団体を表彰した。多様なステークホルダーとインタラクティブに「繋がる」ことで「東北大学ブランド」のさらなる向上と東北大学コミュニティの一体感の強化に大きく寄与した。



<東北大学国際功労賞・海外同窓会アワード」の表彰式>

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● ワシントン大学-東北大学アカデミックオープンスペースの覚書を更新

2022年4月、米国ワシントン大学と共同で設置するワシントン大学-東北大学アカデミックオープンスペース(AOS)の設置に関する覚書更新の調印式をオンラインで行った。覚書の更新によりAOSを通じて更に活発な交流が生まれ、両大学の発展に貢献することが期待される。



<オンライン調印式の様子>

● ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンと連携強化に合意

2023年3月に東北大学で、戦略的なパートナー校であるユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)と連携強化に関する合意書の署名式が行われた。学生・若手研究者の人的交流プログラム、共同教育、共同研究の更なる連携促進が掲げられ、今後、両大学間でさらなる連携強化の発展が期待される。



<UCLとの署名式の様子>

■ 自由記述欄 (取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング日本版2023で4年連続第1位に選出

Times Higher Education (THE) が発表する「THE世界大学ランキング 日本版2023」において、本学が1位に選出された。1位選出は、2020～2022年に続き4年連続となる。「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」のいずれの評価指標においても上位に位置付けられたが、「国際性」について大きな評価を得たことが、4年連続総合評価1位へとつながった。



■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 地元自治体と連携した外国人構成員への一貫したサポート体制確立へ

本学で受け入れる外国人研究者や留学生に対する生活支援の一元的窓口として2022年4月に国際サポートセンターを創設、活動を開始し入国前から渡日後に係る生活支援を一元的・包括的に支援する体制を整えた。この取組は学内にとどまらず、地元自治体との連携にも発展している。2024年1月に仙台市と国際卓越研究大学認定候補選定を契機とした更なる連携強化に合意するとともに、同年7月には仙台市との連携のもと「国際化共同推進センター」を学内設置した。本学の取組が広く社会へと横展開されることとなった。



ガバナンス改革関連

● 国際卓越研究大学認定候補へ

東北大学は、2023年度までに国際卓越研究大学の国内唯一の認定候補として選定された。3つのコミットメント「未来を変革する社会価値の創造」、「多彩な才能を開花させ未来を拓く」、「変革と挑戦を加速するガバナンス」の下、全方位の国際化などの6つの目標を達成するために、19の戦略を提示。骨太の研究戦略に基づく卓越性の追求や、国際性・開放性を基盤とする大学院変革等を実行する計画が高く評価された。国際卓越研究大学における研究環境の充実、優秀な人材の獲得を促し、知的価値創造の好循環を形成することで、我が国の学術研究ネットワークを牽引し、諸外国のトップレベルの研究大学に伍する研究大学の実現を図っていくことが期待されている。

教育改革関連

● 国際共修授業の拡充・発展

国内学生と留学生がともに参加する国際共修授業は、2013年度11クラスから2023年度は66クラスと6倍に増加し国立大学最大規模に成長を遂げている。コロナ禍においても、国内に先駆け2020年度1学期から海外協定校とのオンライン国際共修授業を開始するなど先進的に取り組んだ。2021年より本学を代表に国立5大学と「大学教育の内なる国際化の加速と世界展開（ICLプロジェクト）」による単位互換交流を開始し、大学の国際化促進フォーラムにおけるプロジェクトとしても選定され、グッドプラクティスの横展開が進んだ。本事業期間中での取組が、本学が大学ビジョンで掲げる「国際共修キャンパス」の実現に大きく寄与することとなった。

● 東北大学グローバルリーダー（TGL）短期特別研修

本学が実施するTGLプログラムにおいて、グローバルリーダーに認定された者を対象に「東北大学グローバルリーダー短期特別研修」を2023年度初めて開催（イタリア・ローマ市）した。ローマ在住の歴史小説家の方との懇談や、ローマ大学ラ・サピエンツァ校の訪問など、グループ毎に設定したトピックに関する現地調査等を行うなど、国際教養力を涵養しグローバルリーダーとして国際社会に貢献するためのさらなる研鑽に励む機会となった。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

● 国際共同大学院プログラムの進展と先端的教育研究クラスターの構築

海外有力大学との協働による「国際共同大学院プログラム」を創設し、2015年度のスピントロニクス分野を皮切りに研究科を横断する学位プログラムとして教育を開始した。本事業期間中において、北米・欧州・アジアの約30の海外有力大学とJointly Supervised Degree (JSD) 等に関する覚書を締結し、当初予定の7分野を上回る10分野で大学院での国際共同教育と世界を牽引する高度な人材を着実に輩出(修了生数196人)したことにより、国際プレゼンスの高い教育研究拠点が形成された。プログラムを束ねる組織として2015年度「東北大学学位プログラム推進機構」を設置し、2021年度に「東北大学高等大学院機構」として発展・改組したことで質の保証がさらに担保され、大学院教育改革が進展した。



<統合化学国際共同大学院>

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)

「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)」では、グローバルリーダー認定者数が年々増加しており、2023年度末時点で累計243名に上る。グローバルリーダーの認定を受けた者は、グローバル企業や国際機関等を進路とするなど、本プログラムが掲げる教育目標の実現が着実に進んでいる。



<TGLプログラム>

■ 国際的評価の向上につながる取組（タイプAのみ）

● 海外ステークホルダーとの連携強化

国外において顕著な業績を有する同窓生・同窓会等を顕彰する「東北大学国際功労賞・海外同窓会アワード」を創設し、毎年受賞者を本学へ招き授賞式を開催している。海外ステークホルダーと繋がるこの取組は、東北大学ブランドのさらなる向上と東北大学コミュニティの一体感の強化に大きく寄与した。



<東北大学国際功労賞・海外同窓会アワード」の表彰式>

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● AOSスタートアップセッション及び化学分科会セミナー

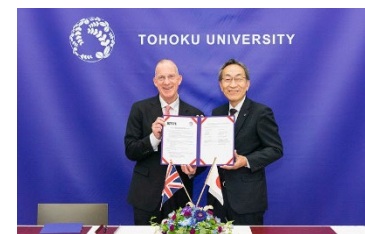
本学と米国・ワシントン大学が共同で設置するUniversity of Washington-Tohoku University : Academic Open Space (AOS) の活動の一環で、2023年11月にイベントを開催した。ワシントン大学副学長を交え、スタートアップ支援の領域での両大学の将来的な協力の可能性について活発な議論が行われるなど、両大学の両大学のイノベーション推進等における連携の更なる進展が期待される。



<スタートアップセッション>

● ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンと学長会談およびMoU更新署名式を実施

2023年10月、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)のMichael Spence学長ほか7名が本学を訪問し、連携強化に関する学長会談及び大学間学術交流の覚書(MoU)更新の署名式を実施した。両大学が学際的共同研究や若手研究者育成に一層注力するなど、さらなる連携強化を発展させていく決意を確認し合った。



<UCLとの署名式の様子>

■ 自由記述欄（取組について自由にアピールしてください）

● 国際卓越研究大学認定候補として選定

2023年度までに国際卓越研究大学の国内唯一の認定候補として選定された。本SGU事業での取組実績・成果は事業終了後も継続されるとともに、国際卓越研究大学の構想において掲げた、教育改革や包括的国際化の目標設定・体制強化に対する高い評価へとつながった。グローバル時代を牽引する教育・研究を行う大学、すなわち世界から尊敬される「世界三十傑大学」を目指した本SGU事業が大きく寄与し、創造と変革を先導する大学として新しい時代の大学像を提示することができた。